【取扱い厳重注意】

平成２４年６月１日

聴　取　結　果　書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局　員　　仁　保　智　紀

平成２４年２月２８日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第１　被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

１　被聴取者

民主党参議院議員　福山 哲郎（事故当時は内閣官房副長官）

２　聴取日時

平成２４年２月２８日午後３時００分から同日午後５時００分まで

３　聴取場所

事故調事務局９１９会議室

４　聴取者

柳田委員、高嶋参事官、飯崎参事官補佐、神藤主査、三田主査、仁保主査

５　ＩＣレコーダーによる録音の有無等

■　あり

□　なし

第２　聴取内容

事故対応全般について

第３　特記事項

下線部については、先方から強い非開示の要望があった。

以　上

【取扱い厳重注意】

○質問者　お願いします。
○質問者　それでは、前回の続きということで、冒頭は、SPEEDIとモニタリングに関して幾つかお伺いできればと思います。
○福山前副長官　どうぞ。
○質問者　前回、最後にお話をいただいたときに、SPEEDIのシミュレーション結果の公表についてという紙、3月30日付のものを見せていただきまして、さまざまな仮定を置いた計算については、計算を委縮させる可能性があるので、非公開が望ましいというお話について、協議の終わり際に文科省が持ってきて御了承された可能性があるということをおっしゃっていたんですけれども、このときの文部科学省の聞き方として、広くSPEEDIデータの公表についての方針ということなのか、情報公開請求があった場合に限っての対応というニュアンスで聞かれたかというのは、何か御印象のようなものはございますか。
○福山前副長官　これは情報公開請求に対してというニュアンスだったような気がします。
○質問者　そうしますと、積極的に広く一般に公表するという話ではないんですか。
○福山前副長官　そこは誤解を恐れずに申し上げますと、22日に初めてSPEEDIがダストサンプリングで出てきたときには、実際に官邸に上がってきた日に我々は公表しなさいということを明言していますので、それから先、我々の中でいうと、SPEEDIのいわゆる実測値に基づいたデータについては、公表するという前提になっています。ですから、我々としては、出てきたものを隠すつもりは全くなかったので、このときに情報公開請求と言ってきたという印象があるのは、それ以外のことについての情報公開請求が何らかの形であった場合にどうしようかという感じの雰囲気だったと記憶しております。
○質問者　わかりました。
その後、いろいろと協議がなされていきまして、最終的に4月25日、統合記者会見において、細野補佐官がSPEEDIデータはすべて公表するという発表されておりまして、4月25日の午前9時ごろに、官房長官の部屋ですべて公表するという方針が出されておったと聞いておるんですけれども、その場に御同席をされたような御記憶はございますか。
○福山前副長官　25日はいたかもしれません。私の中ではまだ本当に何も出ていないのかという感じで、細野さんもまだ出ていなかったんだと言って副長官室に来られたときに、何でだというやりとりをしたのを記憶しております。
ただ、そのときに、彼らの説明の仕方、別に私はお役人さんに責任をなすりつけるつもりは全くありませんが、この間も申し上げたように、この時点は3月24日、25日ぐらいから連日SPEEDIを回して、1年前の気象情報なども全部回した上で、今後のいわゆる計画的避難区域等々の議論をどうするかということをしておりました。ですから、1日2回ぐらい、毎日、文科省、保安院、安全委員会等を集めていました。
こういうことを言うとよくないのかもしれませんが、最初のうちは、SPEEDIの全体のデータは私らの前にも出てこなかった経緯があって、一度、細野さんがかなり怒られて、

全部出しなさいという話をして、出してきて、それを前提にぐるぐると協議をしていきました。

その協議で、よし、これでいきましょうということが大体了解されて、官房長官が待っている官房長官室に行きましょうという状況の中で、実はこのペーパーが出てきて、当時は計画的避難区域や緊急時準備区域をどうするかということをセットしているときだったので、我々から見れば、実測値に基づいて、いかにそれから先被曝を少なくするかということが前提でしたので、お手元にもお持ちだと思いますが、この公表データのうちの１と２については、とにかく出しなさいと言いました。

３番目については、向こうの説明は、どうでもいいから、とにかく打ち込んだものです。例えば３分の１が放出した場合とか、半分が放出した場合とか、とにかくアットランダムに全部入力をしました。だから、何らかの指示に基づいてとか、統計的にやったわけではないので、そういったものを出せと言われると、今後そういう対応ができなくなるので、これは出さなくてもいいでしょうかという話があったと記憶しております。私らにとっては、事実に基づいた SPEEDI の結果が避難には一番重要なので、そのことに対してはこだわらないという形で、みんな官房長官室に行こうという腰が上がった状況で紙をぽっと出されて、そういう説明の仕方を受けたというのが実態です。

ですから、官房長官室で官房長官が出すという話をしたときも、私個人から見れば、まだ出していなかったのかという気持ちでしたので、実態としてはそんな感じでした。

○質問者　わかりました。

また別の日付になるんですけれども、５月１日にこういう紙が出ておりまして、福山副長官のところに公開 OK の話をされたという記録が残っていますが、こういったものをごらんになられた御記憶はございますか。

○福山前副長官　これは 25 日か何かに初めて統合記者会見が行われた後ですか。

○質問者　そうでございます。官房長官からすべて出すようにと言われた後に、更にそれをどう出すかという話です。

○福山前副長官　これは余り記憶がないです。見たかもしれません。

○質問者　細野補佐官のところに行って、まだこんなにあったのかという話をされたということはございますか。

○福山前副長官　これは統合会見の後ですか。

○質問者　後です。

○福山前副長官　統合会見のときに、最初に SPEEDI だったのではないんですか。途中でしたか。

○質問者　統合会見の中で SPEEDI を出すという説明をされて、そのとき、事務方の方は単位放出の計算だけを出せばいいということだったようです。

○福山前副長官　わかっています。それはそうです。だから、私は４月 25 日ではなくて、その後です。

全部が出てきて、細野さんが怒ったのは4月25日ですか。

○質問者　4月25日は実は一部しか出なかったんです。

○福山前副長官　それは4月25日ではないです。その後に私のところに来て、まだあったんだみたいな話をされていました。

○質問者　事務方からそのやりとりがあって、今度は5月1日になるんですけれども、5月2日にすべて公表されたということです。

○福山前副長官　わかります。それはそうだと思います。

ただ、この紙を私が見ているかどうかはよくわかりません。枝野官房長官のところで全部公開しようと言って、そうだという話をしたのはよくわかっております。

○質問者　わかりました。

その後、こういう立腹されたやりとりをされたということですね。

○福山前副長官　多分OKしているんだと思います。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　済みません。立腹はよくわかるんですが、3月の終わり、官房長官室に行くときの会合は、細野さんが出席されているはずです。[redacted]官房長官のところに先に出ておられていたのかもしれませんので、そこは私もよくわかりませんが、そういった状況でした。とにかくそんなやりとりです。これが主たる項目ではないところで、このペーパーが出てきたということです。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　自分を正当化するつもりはありませんが、3番目の問題は本質的な話では全くございません。このことが公開になろうがなるまいが、実際の避難のオペレーションについては全く関係ない。公開をする、しないということは重要なんですが、現実に我々オペレーションをする立場にとって重要なのは、実測値に基づいて、どうやって避難をするかということですので、もともと隠すような意向があったということでは全くありません。このことは針小棒大に議論して頂くのは、別に自分を正当化する気はありませんが、余り本質的な意味はないと思います。

○質問者　前回、私もお話したとおり同意見です。

○質問者　わかりました。

○質問者　中間報告では、実測値がなくても、推測である程度出たら、方向ぐらいは、誘導する上であるいは注意を与える上で、役に立つのではないかというスタンスのものを書いているわけですけれども、それについてどうお考えになりますか。

○福山前副長官　これは本当に難しい問題だと思っておりまして、風向きについての意識は当初からありました。私のノートにも風向きのことの表記が書いてあります。天気、雨、曇り、強風注意報と書いてあって、1時半ぐらいのベントの議論のときも、風向きはどちらだという議論をしています。風向きが重要だというお話は、恐らく班目さんとか当時の

寺坂さんか平岡さんからもあったような気がします。その認識はそもそもありました。ただ、SPEEDIというソフトがあることは知らなかったというのが実態です。

御案内のように、夜中の1時半か何かに1発目のSPEEDIがきているという話がありますが、私らは後付けで聞いているわけです。SPEEDIは、逆にいうと、海沿いに風が向いていることになっていて、保安院の認識を少しおもんぱかって申し上げると、風向きが海側だということを確認したので、そのことについて、こちらに伝える必要はないと判断した可能性はあると思います。その後はばたばたで、ベントだ、どうのこうという状況の中で、そのことについて飛んだ可能性も否定はできないと思っています。ただし、そのときに、例えばSPEEDIというソフトがあることを私らが認知していたとしたら、柳田先生がおっしゃるように、風向きで多少の誘導はできたかもしれません。

皆さんは嫌というほど御案内のように、こういう状況のときに、11日、12日の時点で申し上げれば、例えばSPEEDIを回すと、当然こういう状況になります。特に14日、15日のプルームが飛んだときはこうなりますね。10日、11日に関していえば、風向きがいろいろ動いていてわからないんですけれども、現実問題としては、30km圏内もすべて通信と電源が切れています。テレビも映りません。ラジオが最高の伝達手段でした。

この間も申し上げたかもしれませんが、例えばこの辺は現実に線量が低かったわけです。この辺は線量が高いです。10日、11日、12日の時点で、ここに爆発のリスクを抱えている状況の中で、あなたは避難していい、あなたは避難しなさいという個別のオペレーションをする、伝える手段はありませんでした。それから、伝える手段が万が一あったとして、あなたはいてもいいですと言ったとしても、私らの頭の中には一方で爆発のリスクがあります。ベントで放射性物質が飛散するリスクと、ここの爆発のリスクを両方考えているので、爆発のときにはどこへ飛ぶか私らは全くわかりませんので、逆に、私は、いまだにSPEEDIがたとえあったとしても、同心円状の避難指示というのは免れなかったと思います。[redacted]

柳田先生はメディアにいらっしゃいますから、恐縮ですが、例えばここが無事で、ここは逃げなさいと言ったときに、隣の町がみんな逃げているのに、私たちは何で安心なんだ、何でここにいていいのかという話がわっと出たときに、現場は多分もっと混乱します。それを説明する手段も手立てもないわけですから、当初の時点での同心円状での避難というのは必須だったと思っています。それは今も全く変わりません。

もう一点申し上げれば、当初、ベントでどのぐらいの放射性物質が出るかという明示が保安院からも東電からも何もなかったので、どの程度の量が出るかわからない。我々にとっていえば、最初も申し上げた、より広く、より早く避難を出すということが優先順位として高かったので、同心円でやらせていただいたということになります。

一方で、SPEEDIがあれば、なるべくこの方向へは逃げないでくださいと。ただし、同心円の避難はしようがないけれども、この方向は風向きがあるので、なるべくこの方向を避けて避難をしてくださいという指示ができた可能性はあると思います。唯一私が考え得

るとしたら、その程度です。何でここは避難指示を出したんだとか、何でここは避難をしなくていいという判断をしたんだと言われたときに、申し訳ないですけれども、コンピュータのソフトで政治判断をしたというのは、政治的には無理です。コンピュータのソフトを回したぐらいで、田畑、家、全部財産を捨てて逃げろという判断をしたというのは、政治的にはあり得ないと思っていて、特に11日、12日、13日の同心円は仕方がなかったと思います。ただ、14日、15日のプルームが多く飛んだときに、SPEEDIの存在がわかっていれば、通信、電気の問題がありますが、こちらの方には避難をしないように注意をしてくださいという、注意喚起ぐらいはできたのではないかと、内心じくじたる思いがあります。

済みません。ちょっと長くなりました。

○質問者　11日から翌日ぐらいにかけて、下手にわいわい逃げるよりは、家にいておとなしくしていた方が被曝は避けられるのではないかという考えもあるわけですけれども、そういう議論はなかったんですか。

○福山前副長官　ありました。逆に一遍に20kmまでとか、一遍に30kmまでという議論もあったんですが、それを抑えて10kmにしたのは、そういう意味です。

先日も申し上げたかもしれませんけれども、一遍に20kmにすると、一気に避難の人数、人口が増えます。同心円状で近いところから逃がさないと、遠いところから逃げ出すと、渋滞はこちらからこうきます。こちら側の人が逃げることによって、本当に逃げなければいけない近い人が渋滞になるというのは避けたかったので、とにかく小さいところから早く出す。10kmで抑えたというのは、少なくとも10kmに関してはしようがないから逃げてもらいます。そこで20km、30kmまで広げると、20km、30kmの人が先に逃げてしまって、本当は距離のリスクがある近場の人が逃げ遅れる可能性があるので、段階的に避難のプロセスを大きくしたという判断だったので、最終的に20～30kmを屋内退避にさせていただいたのは、今、柳田先生が言われた観点を入れたからです。

20～30kmのときは大議論になりました。御案内のように、あのときにはもう水素爆発が起こっていて、20～30kmも含めて、先に出してしまった方がいいのではないかという議論が本当に強くありました。ただ、20～30kmの同心円になると、人口が一気に増えますので、外へ避難をしているプロセスの中で、爆発が起こったら外部被曝する。このリスクはやはり避けたい。つまり二次被害は避けたい。それで、20km離れていれば、多少リスクがあっても、屋内は被曝のリスクが低減されるということを安全委員会の班目さんからも聞いていましたので、そういった観点で、20～30kmは屋内退避にさせていただいたというのが、あのときの結論です。

伊藤危機管理監は20～30kmになると、避難場所のマッチングが不可能だとおっしゃいました。20～30kmを動かすのに、自主避難プラス屋内退避にしたのは、逃げられる人は車で逃げてくださいというメッセージです。なおかつ、妊婦、お年寄り、病気の方々については、放射性物質が多少飛散するリスクはあるけれども、これは自衛隊とか警察が行っ

てくれ、緊急車両が行ってくれ。あとに関しては、申し訳ないけれども、自主避難をしてくださいという思いでした。それは柳田先生がおっしゃるように、万が一の爆発のときの外部被曝を避けたいと思って、20～30km については屋内退避をさせていただいた。

この間も申し上げたように、20km は水素爆発がありましたので、１号機が水素爆発するとなれば、２号機、３号機も、蓋然性としてはより水素爆発のリスクが高まるわけで、それが連続で爆発し出すとこれはリスクがあるということで、20km は 10km の後に出て行ってもらったというのが、我々が判断をしたプロセスです。

○質問者　少しずれるかもしれないんですけれども、後で計画的避難区域として飯舘とか何か出しましたけれども、あれを決めるのに時間がかかっていますね。時間がかかった最大の理由は何ですか。

○福山前副長官　最大の理由、23 日に出てきた SPEEDI の結果、ダストサンプリングは、４か所でのダストサンプリングだったということ、それから、それを定期的に確認しなければいけないということです。

それから、これはまだ記憶があいまいなんですけれども、多分 24 日、25 日ぐらいからようやく注水が安定的にできたと思っていまして、３月下旬はメルトダウンだとか、爆発のリスクがゼロではないというか、消えていなかったと思います。つまり爆発のリスクがある限りは、先ほど柳田先生が言われたような外部被曝のリスクがありますので、ある種炉が安定するまでは、我々として、外に出すことについてはずっと躊躇していたというか、そこは自制をしていた。その間に御案内のように、放医研を通じて、例の飯舘、川俣のスクリーニングの調査と、SPEEDI を回して、現実に避難をしていただく場合にどういう形で避難をしていただくかという協議を３月下旬から４月頭に始めていた分、遅れたというのが実態です。

屋内退避という指示は、当初は２～３日のつもりでした。つまり前にも申し上げましたが、私らは素人なもので、外部電源がつながれば冷却機能は復活すると思っていました。４月 2[redacted]日か何かの日曜日の午後に、最初に外部電源がつながるんですが、そうなったら冷却機能は復活すると我々は思っていましたから、冷却機能が復活しなかったことも含めて、その分、屋内退避が非常に長引いたというのは、避難をされた方々はお気の毒だったと思います。

○質問者　飯舘村の菅野村長の話だと、村としての判断もかなり苦労されて、時間をかけてやっています。だから、計画的避難の決定後、本当に起動したのは１か月後です。５月になってからです。

○福山前副長官　後でこれはコピーをいただければと思いますが、４月７日に初めて菅野さんが官邸に来られました。私は状況をお伺いして、そのときに我々は計画的避難区域の内々の検討をしていたところだったので、菅野さんに何となくの打診をして、菅野さんの反応などを拝見しながら、このことをお願いするのはかなりきついということを考えました。

【取扱い厳重注意】

これは非公表ですが、４月 10 日に私と細野補佐官と松下副大臣が初めて福島に内々に出張して、知事、飯舘の菅野さん、南相馬の桜井さん、川俣の古川さんにお目にかかって、３時間ほどずつ状況を説明いたしました。これが現実のキックオフです。

○質問者　それは何日でしたか。

○福山前副長官　４月 10 日です。

11 日に官房長官が計画的避難区域の考え方を発表することになりました。

○質問者　ひそかに行かれたときの自治体の首長３人の反応というのは、どんな具合だったんですか。

○福山前副長官　率直に申し上げると、当時、飯舘は IAEA が視察に行ったりして、菅野さんと小競り合いがあったという報道が大分出ていて、私は菅野さんという村長はどんな人か、実は相当警戒をしていたんですが、官邸で１回食事をさせていただいたら、非常に村を愛している方ということもわかったし、冷静に話をされる方だということもわかったので、10 日は正直に話をしました。

私が飯舘に入るとマスコミが騒ぐので、菅野さんの御意向で、県庁舎の隣の迎賓館みたいなところで菅野さんに説明をして、非常にショックの面持ちで、全村避難などということは、とても村民に説明できない。当時、飯舘は村づくりを一生懸命やっておられました。牛も飯舘村のところはもうでき上がっていましたし、農業をどうするんだ、仕事をどうするんだ、ましてや立地市町村ではなくて、飯舘は原発の立地交付金ももらっていない。何で我々がこんな思いをするんだ。忘れもしないのは、私は１時間だけ説明をする時間をとって、次に南相馬に行く予定だったんですけれども、３時間話し込みました。

南相馬もそうでした。２時間か３時間話しました。ただ、南相馬は、逆にいうと、非常に大きく住民を避難されておられましたので、逆に桜井さんの関心は、20km 以上に離れたところで、計画的避難区域にならない人たちももう逃げている。南相馬は非常に早く桜井さんが逃げろと言われてしまったので、計画的避難区域に当たらない人たちがもう逃げている。その人たちの扱いは一体どうなるんだ。補償の対象になるのか、その人たちの避難の正当性は認められるのかとか、南相馬はそういったことに対して強い関心がおありでした。

それから、川俣の古川町長は、本当に立派な方です。私が一番印象に残っているのは、これも冗長的な話で恐縮ですけれども、この間も申し上げたように、川俣は最初の避難の段階で、富岡とか楢葉とか浪江の避難住民を全部受け入れているんです。消防団が手旗信号で渋滞の車の交差点を対応し、停電の最中、住民の皆さんが手弁当でおにぎりをつくり、体育館をすぐに開放して、立地市町村の住民の避難を受け入れて、12 日、13 日は川俣に 6,000 人避難されたそうです。そんなふうに自分の村を挙げて、町を挙げて、避難民を受け入れたところが、何で１か月経って、自分らが避難をしなければいけないんだ、そんなことがあるのかと古川さんは言われて、古川さんとも３時間ぐらいの議論になりました。

一番大きかったのは、古川さんの印象でいうと企業がある。その企業がもし残りたいと言われたときに、どういうふうに弾力的に対応してもらえるのかみたいなことは、実際そのときにもありましたし、後の話でもありました。

それから、飯舘、川俣、両方で確認があったのは、とにかくモニタリングを細かくやってくれ。住民から自分の地域のモニタリングをしてくれと言われたときは、必ずやってくれ。そうでないと、住民を説得できない。当時まだモニタリングの実態の数字が少なかった部分があったので、それをより細かくやってほしいという要請をかなり強くそれぞれの市町村から受けたというのが、4月10日の夜のことだったと思います。

現実には、その後、補償の額はどうなるのかとか、企業の中で線量の低い地域については、特別に企業を存続させてくれないかとか、子どもたちの学校はどこでならいいのかとか、仮設住宅をどうするかという、もう少し具体的な話はそこから以降に出てくるという感じです。

○質問者　どうもありがとうございました。

○質問者　また私からです。話が戻ってしまうんですけれども、モニタリングについて、1点お伺いできればと思います。

昨年6月に政府がIAEAに提出した報告書の中にも記載があったんですけれども、3月16日にモニタリングに関する役割分担のようなものが政府内部で行われまして、モニタリングデータの収集・公表は文科省、そのデータの評価は安全委員会が行って、対策は原災本部が行っていくという整理がされたんですけれども、この整理がされた過程に、福山副長官も一部関与されていたところがあると思います。

○福山前副長官　私は官邸の下の危機管理センターの中で、官房長官や鈴木副大臣がいらしている中で、枝野さんがこう、こうと、すぱっと割り切ってやろうという話をして、わかりましたという状況のまさに現場にいましたので、そういう感じでした。

○質問者　わかりました。

私どもの問題意識としまして、この整理という考え方がどういった方から出てきて、官房長官が最終的に決められたのかというプロセスを調べておりまして、鈴木副大臣にも以前お話を伺ったときに、15日の夜ぐらいから福山副長官とお話をされて、モニタリングが重要である。情報を収集する機関と、それに基づいて戦略を立てる機関、副大臣は情報参謀と戦略参謀という言葉を使っていらっしゃいました。

○福山前副長官　そんな言葉があったかどうかはよくわかりません。

○質問者　そういったものを分けて、モニタリングは実施するべきであるといった趣旨の会話を副長官とお電話でされたということをおっしゃっていたんですが、そういった御記憶はございますか。

○福山前副長官　鈴木副大臣とは断続的にやっていました。なぜかというと、当初、モニタリングは、この間も申し上げましたように、1発目はモニタリングポストが停電でだめ

ですという話が入ってきます。唯一頼りになるのは、東電の正門とか東電周辺のモニタリングです。このことで例の1号機の水素爆発みたいな話の判断をしていました。

途中から、文科省がモニタリングカーを回しますと言って、モニタリングカーを回して、その数字が入ってくることになります。これは多分相当時間が経ってからという印象です。

一方で、途中から福島県もモニタリングをしていたという情報が時間差で入ってきて、何なんだ、福島県がやっているんだったら、さっさとそのデータを持ってこいみたいな話をした記憶があります。

ところが、経産省は経産省でまたやっているんです。

それで、結果として東電がやっているのか、文科省がやっているのか、経産省がやっているのか、よくわからない。周辺の自治体は、経産省なのか自治体がやっているのかよくわかりませんが、周辺はこうだみたいな話で、茨城はこうだみたいな話が出てきます。それで、モニタリングのデータの形式がそろわないんです。数字が並んでいるものが紙で出てきて、こんな状況ですと言われても、私らは正直言ってわからないわけです。

それで、あのときに鈴木副大臣などとやって、もともとモニタリングは文科省がやっている話だということの中で、モニタリングについては、文科省が一括管理をしてくれ。つまりほかの省庁とかほかのところから集めて文科省がやってくれ。しかし、その評価については、安全委員会がやる。安全委員会はそういう仕事だと私らは思っていましたので、安全委員会がやって、我々に指図をしてくれという話で、結局地下の階でやったときも、枝野さんにそういう説明を鈴木さん、保安院、文科省もひょっとしたら森口さん、森口さんはそのときはいなかったかもしれません。文科省の別の人かもしれませんが、まだ森口さんは登場していないかもしれませんが、来られて、説明をされて、恐らく伊藤危機管理監もそのときにはいらっしゃったと思いますが、枝野さんがもうこれでいこうと言って、その場で仕切ったというのがプロセスだと思います。

○質問者　わかりました。

枝野さんにどなたかが役割分担の考え方を伝えられて、決定をされたのか、その場で枝野長官が議論を聞いて、こういう役割にしようと言われたんですか。

○福山前副長官　枝野さんも議論を聞いて決めたような気がします。そこはわからないです。ただ、周辺情報みたいなものはみんなで伝えた上で、こうしようと枝野さんが判断されたと思います。

○質問者　鈴木副大臣と枝野長官が直接話をされていたかどうかはおわかりですか。

○福山前副長官　していると思います。そのときは一緒ではないですか。鈴木副大臣は何とおっしゃっていますか。

○質問者　鈴木副大臣は、官房長官から落としてもらうのが一番組織の整理としてはいいのではないかということで、15日の夜ぐらいから副長官と話をされて、翌日、本部会合が始まる前にしか官房長官のお時間が取れないということで、官邸の地下に関係者を集めて協議をしたとおっしゃっています。

○福山前副長官　そこです。そこに副大臣はいらっしゃいますね。
○質問者　そこはいらっしゃいます。
○福山前副長官　私もそういう記憶です。
○質問者　安全委員会から女性の久住委員がいらっしゃいましたか。
○福山前副長官　わからないです。
○質問者　わかりました。申し訳ございません。
○質問者　文科省がモニタリングをやって公表し、評価・分析の部分は安全委員会という仕切りがその日に決まるわけなんですが、どうしてそういう整理なのかというところについて、そこら辺の説明をうまく説明されていたのは、鈴木副大臣でしょうか。
○福山前副長官　鈴木さんだと思います。
○質問者　その席上ではなくて、その席より前に直接鈴木副大臣と枝野官房長官との間で話があったかどうかというのはわからないですか。
○福山前副長官　わからないです。
　ただ、モニタリングの系統がばらばらだというのは、当初からずっと問題意識があったので、逆にこれは今お話をさせていただいて思うんですけれども、後付けですが、鈴木副大臣は整理能力の非常に高い副大臣で、実は子どものときもそうですし、いろんな場面で鈴木副大臣と大塚副大臣は、文科、厚労ともに非常に貢献をしてくれているんです。鈴木さんからの整理というのは、枝野さんや私らからいうと、ある程度影響力があるというか、ある種信頼関係があるので、枝野さんと鈴木さんがその場で２回目なのか、１回目なのかはわかりませんが、断続的にみんながやっていたのは間違いなくて、私らはモニタリングはどうするんだみたいなことを言う仲だったので、そこはその流れの中で枝野さんが判断されたということだと思います。
○質問者　官房長官秘書官の中で、そういう問題意識はありましたか。
○福山前副長官　みんなにあったと思います。[redacted]そこで経産に一括化しなかったことも含めてね。なぜかというと、文科省がモニタリング等の実施機関だから、そこに集約しようという判断をしたんだと思います。
○質問者　モニタリングの結果の集約が文科省というのは、我々もすっと理解できるんですけれども、これを評価・分析するところはどこかというときに、安全委員会というのは我々は若干違和感があって、なぜかといいますと、安全委員会というのは、もともと助言機関として位置づけられているものですから、そういう機関で大丈夫だろうか、そういう疑問といいますか、そういう気もするんですけれども、当時はそんな議論というのはなかったんですか。
○福山前副長官　ないです。なぜかというと、構造的に先行きそうなると思いますが、安全委員会の位置づけというのは変わります。原災本部のあれになりますよね。表があるは

ずです。今日は持ってこなかったんですけれども、原災本部に対していろんなものを安全委員会が助言する形になりますよね。あれはいつ決まりましたか。

○質問者　24日前後だったと思います。

○福山前副長官　そうでしょうね。私らの中でいうと、前回申し上げたと思いますが、当時いろんな判断をするよすがというか、そうはいっても、最後のところはやはり安全委員会なんです。[redacted]そこは安全委員会に評価してもらうしかない。私らは何を根拠にこの意思決定をしたんだと言われると、ベースが何もなくなります。つまり専門的なある種バックグラウンドを基にこのことを意思決定しましたというベースがなくなりますので、全部安全委員会に評価という形でやってもらう中で、我々はその場で判断しようということを考えたので、他のオルタナティブはないです。

○質問者　あるいは評価のところについては、原災本部といいますか、事務局がやっているのは、保安院のERCが評価をする。ただ、その評価をするに当たっては、原子力安全委員会がちゃんと助言する。専門家を寄せて助言するという選択肢も可能性としてはあり得るんでしょうけれども、そういう議論というのはないんですか。

○福山前副長官　ないです。ERCという存在は、私の中にないんです。それは中間検証に書かれているところです。ERCというのは私らの中に全く存在感がないです。経産省は隠れていました。15日のいわゆる撤退騒動まで、私が次官の姿を官邸で見たのは、そのときが初めてです。資源エネ庁の長官の姿を見たのもそのときが初めてです。だから、ERCの存在自身が、私らの中ではそんなに大きな位置づけがないというか、存在感としてない。

ERCと安全委員会の関係性というのは勿論わかりますが、我々から見たら、一刻を争うところで、安全委員会に評価を直接してもらわないと、時間的な問題も含めてあり得ないので、そこはないです。後付けで、マニュアルとか根拠にはそういうことがあったかもしれませんが、私らの中には全くないです。

○質問者　逆に情報を集める文科省に評価もやってもらうという選択肢はどうだったんでしょうか。

○福山前副長官　文科省にそんな能力はないので、鈴木さんは多分うちはできないからと言っていたと思います。

○質問者　わかりました。

○質問者　最後なんですけれども、3月16日の協議の場で、鈴木副大臣からSPEEDIという明言はなかったんですが、シミュレーションについては評価に関わることであるので、そこも含めて安全委員会がやった方がいいのではないかという問題提起をされたということはどうですか。

○福山前副長官　わからないです。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　申し訳ありませんけれども、SPEEDIという議論は、モニタリングの役割分担のときには全くありません。
○質問者　シミュレーションというのはどうでしょうか。
○福山前副長官　わからないです。
　済みません。柳田先生、今日は半分官僚の皆さんがいるので言いにくいんですけれども、[redacted]ここはシミュレーションという表現で言ったかもしれないということ自身、私はそんな細かいことを言ってだれが覚えているんだという感じなんです、その火事場で。ましてやモニタリングをだれがするのかといって、必死になってやっている最中に、そんなアリバイみたいな言葉を1つ入れるか、入れないかみたいなことはすごく重要なんですけれども、そのことを、今、持ってきていること自身、私は若干疑念を感じます。私は今日は正直にしゃべっています。ただ、SPEEDIの存在については、そのときの議論ではありません。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　誤解を恐れず申し上げます。その当時はもうメディアでSPEEDIの議論が出始めています。だから、枝野さん中にも私の中にもSPEEDIの存在は、何かわかりませんが、あります。
　ただ、そこについては、なかなか言及がなくて、これはこの間も申し上げたと思いますが、記憶ではわからないんですけれども、17日か18日に班目さんを呼んでSPEEDIは回していないんですかと確認をしたら、回っていません、私には報告が上がっていないみたいなことのやりとりをやった記憶があります。それはひょっとしたら20日以降かもしれない。ただ、23日より前であることはたしかです。どこかでそれをやっています。
　そのきっかけは、16日以降の小佐古さんの存在も勿論あります。小佐古さんがSPEEDIとWSPEEDIの両方を言われて、2つあるのかと思った記憶が明確にあります。小佐古さんからの提言書にもちゃんと2つ書かれていますから、それは記憶があります。小佐古さんが私のところに最初に来られたのは、日程でいうと、18日か17日です。そのときには明確にSPEEDIの話をされています。私の秘書官の鈴木秘書官のノートには、SPEEDIと書いてあって、クエスチョンと書いてあります。我々の中でいうと、その辺が初見なんです。17日とか18日。
　私が班目さんに聞いたのは、17日とか18日、20日、その辺なんですけれども、1回確認をしています。そのときに、班目さんから間違えなくまだ動かしていませんという答えがありました。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　これは鈴木秘書官も記憶を持っておられるんですけれども、日程が残っていないのでわかりません。班目さんと私と鈴木秘書官の3人でSPEEDIの確認をしたのが、今、申し上げた17日、18日ぐらいという感じです。
○質問者　小佐古さんに言われてSPEEDIという存在がお聞きになってからですね。

○福山前副長官　その前にメディアが騒いでいたので確認したかはあいまいなんです。ただ、小佐古さんでSPEEDIという正確な認知が初めてあったので、合理的に考えると、小佐古さんから言われてからだという気はしないでもないです。
○質問者　その後、小佐古参与と班目さんを集められて話をしたり、そういうことはなかったんですか。
○福山前副長官　それは23日です。
○質問者　それはまさに安全委員会が持ってきたSPEEDIの計算結果を議論した際ということですね。
○福山前副長官　そうです。
　そのときに文科省の職員が1人いて、単位当たりでは回していましたと聞いて、ちょっとびっくりしたんです。回っていたのか。それは23日か24日です。
　23日に初めてSPEEDIが出た総理の執務室で、ヨウ素剤を飲まして、子どもを避難させろといって、久住先生と班目さんが駆け込んできたときに、小佐古さんを呼んでみんなで議論したんです。小佐古さんと班目さんがそこでいきなり口論をし出して、プルームが飛んでいるのは14～15日なのに、今更ヨウ素剤を飲ましても意味がない、素人は困るみたいなことを小佐古さんが言われて、班目さんは放射線医療が専門ではないので黙ってしまって、久住さんは[redacted]ほとんど反論できなくなってしまって、お互いが言い合いをしている状況の中で、菅さんが専門家は専門家同士でやってください、福山君、専門家同士の考えをまとめてと言って、その後、すぐに私が内閣府で会合を開いて、それぞれの御意見を聞いたというのが23日の夕方で、24日か26日にもう一回やっているはずです。
○質問者　24日にあったということですね。
○福山前副長官　やっていると思います。そのときに余りにもそれぞれの専門家がばらばらな意見を言われたので、1回だけのSPEEDIだったことも含めて、久住先生が言われた避難をさせてくださいという話については、少し様子を見ようということになったというのが実態だったと思います。そのとき菅さんは怒りもせず、黙って聞いておられました。
○質問者　24日の協議で、恐らく文科省の職員から、単位放出をしていたことが言われたんですね。
○福山前副長官　そうです。やっていると聞いて、私はびっくりしました。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　ただ、そのときに文科省側は、放出源情報がないので、SPEEDIの効果としては実態を把握していませんから、それは意味がないんですということは勿論[redacted]あります。
○質問者　わかりました。
　私からは以上です。
○質問者　私から広報関係について御質問させていただきます。

前回も幾つか聞いたところがあるとは思うんですが、まず保安院の記者会見についてお伺いしたいんですけれども、先ほど先生がERCの存在感がないとおっしゃられたところで、愚問になってしまうかもしれないんですが、3月12日午後2時ごろに、保安院の中村審議官というスポークマンの方が、午前中から炉心溶融の可能性がありますと言っているんですけれども、14時に明確に炉心溶融をしている可能性が高いですという話をされています。

○福山前副長官　11日ですか。

○質問者　12日です。2日目の午後2時ごろです。

○福山前副長官　水素爆発の前ですね。

○質問者　直前です。

その後、我々がほかの方のヒアリング等で聞きますと、官邸内でなぜ保安院は事前に情報を入れないまま、こういう発表をしているんだという声が高まっていたというお話をお伺いしているんですけれども、先生の方はそういった御認識はあったでしょうか。

○福山前副長官　これは明確に申し上げますと、私は中村審議官の報道その他、人事のことについては、ほとんど関与していません。

この間も申し上げましたが、私は安全委員会の岩橋事務局長の問題については、後々、広瀬さんを呼ぶことについては、枝野さんと相談をした記憶があります。

安井さんのことは知らないうちに来られていて、何と仕事ができる人だろうと思った印象があるので、これは関与していません。

中村審議官については、私は全く関与していません。ほとんど知らないです。

○質問者　人事的なことはさておいて、保安院の情報共有という意味で、個人的には物すごい問題だと思っているところがございまして、要は官邸が知らないところで保安院が言っている。官邸の中にリエゾン、保安院の方がいらっしゃると思うんですけれども、なぜ情報共有が図られていないのかというところを、今、調べているところなんです。

○福山前副長官　それは本当に重要な御指摘で、保安院はずっと会見しているんです。でも、こちらは枝野官房長官の会見が主たる国民に対するメッセージだと思っていますから、この間申し上げたように、私は最初の1週間ぐらいはずっと官房長官の会見は陪席をしています。だから、官房長官の会見の打ち合わせも私はずっと官房長官室におります。そのときに保安院の人が勿論説明に来るわけですが、一方で、保安院がいつ会見をしているかというのは、当初、我々には全く入っていないんです。

一番象徴的なのは、水素爆発の後、保安院が会見をしようとしているのを官邸が止めたという報道がありました。私はそのことについては、あずかり知らなかったんですが、[redacted]この間も申し上げましたけれども、5時45分から枝野さんの会見の打ち合わせが始まるわけです。そのときに全く状況がわからないから、会見

を延ばすかどうかという議論をするんですけれども、その時点で保安院は自分たちの会見を止められたと言っているわけです。つまり枝野官房長官が会見するネタが、水素爆発を説明する材料が何もない状況で、保安院は一体何を会見するつもりだったのかというのは、いまだに私は不思議で、要は我々からしたら、止めるというよりも、その前に報告してこいという感じなんです。あれが保安院の会見と官邸の会見の齟齬の一番大きかった象徴的な話だと思います。勿論中村審議官の話もそうなんですけれども、そこはずっと我々の中には横たわっていました。

○質問者　前回お伺いした話とかぶってしまうところがあるんですけれども、前回のお話を整理させていただきたいんですが、初めて爆発が起きたということを福山副長官が御認識されるのは、与野党会議を12日の15時1分から16時3分でやられていると思います。

○福山前副長官　その前後です。

○質問者　その直後に、伊藤危機管理監が、爆発音がしたという情報が入ったんだけれども、福山副長官は御存じないですかと聞かれたんですね。

○福山前副長官　その辺です。

○質問者　最後に映像で確認したというのは、総理執務室に寺田補佐官が急いで入ってきて、テレビをつけられたところで、本当に爆発しているんだということだったんですね。

○福山前副長官　本当に爆発しているというか、この間も申し上げたんですが、私らはずっと白煙が上がっていると思っていたんです。白煙が上がっているという認識をずっと持っているわけで、白煙と爆発はイメージが違うので、私はあの映像を見たときに、爆発ではないか、あれが白煙なんですかと、私はそのときに班目さんに向かって多分しゃべっているんです。だから、爆発という印象はそもそもないんです。

○質問者　こういうのもあれなんですけれども、前回のヒアリングですと、そのときに班目先生があれは何かの煙ではないかとおっしゃったんですね。

○福山前副長官　それは前です。爆発の映像を見る前です。つまり白煙が上がっていると報道が流れていたり、今、報告がきているけれども、白煙というのはどういうことがあり得るんだろうかといったら、サイトの中には揮発性のものがいっぱいあるから、それが燃えていたりしているのではないですかみたいなことをおっしゃったんです。

○質問者　そちらのサイドを信じられていたんですね。

○福山前副長官　信じるも信じないも何も報告が上がってこないので、爆発しているという認識がないわけですから、白煙とは何だろうということです。総理は総理で早く情報を上げてこいみたいなことをおっしゃっている最中に、例の寺田さんが飛び込んでくるという状況になります。

○質問者　枝野長官秘書官の方からお伺いしているんですけれども、その後、枝野長官と秘書官の方が急いで危機管理センターに下りられて、状況を確認したところ、福島県警から稲妻のような音がした、稲妻のような音とともに煙が上がったという話を受けられているらしいんですけれども、そういった話は共有されているんですか。

○福山前副長官　ないです。どの時点かによります。要は官房長官がその後に総理の執務室に上がってこられて、その報告をして、会見の打ち合わせをしているのはわかりますが、その手前のところではないです。
○質問者　明確にこれはただの煙ではなくて、爆発だと認識されたのは映像ですね。
○福山前副長官　映像です。
○質問者　その後に、一体何が起こったのかということが断片的にわかり始めたのが5時45分の会見の準備のときですね。
○福山前副長官　映像が流れたのが4時49分か4時50分だと思うんですけれども、その後、何だ、早く情報を上げてこいとなりました。あれを見ると、もう爆発なので、チェルノブイリ型なのか何なのか、当時、私らはわかりませんから、対応しなければいけないから、早く情報を上げてこいと言っている最中に、枝野さんも下から飛び込んで来られますと、打ち合わせをしなければいけないという話になっていくという感じです。
○質問者　そのとき、福山副長官は、総理執務室にずっといらしたんですか。
○福山前副長官　多分執務室にいたと思います。走り回っているから、ずっといたかどうかわかりません。だけれども、執務室にいました。
○質問者　5時45分に水素爆発の官房長官記者会見の準備に入ると思うんですけれども、総理執務室で官房長官が上がってきたところ、一応報告を聞いて、その後、官房長官とあれですね。
○福山前副長官　それで、官房長官に、会見が5時45分からですけれども、まだわからないので、会見をずらしますかと言ったんです。その爆発が何の爆発かわからないわけです。まだ報告が上がってきていないので、ずらしますかと言いました。
　これがそのときのものです。これは17時40分プレスと書いてありますね。17時35分ですね。これが私の手元に残っているということは、このときには水素爆発ではないんです。45分が官房長官会見ですね。つまりこの時点ではこの資料が事務方から上がってきているんです。これでは説明できないという話なんです。
○質問者　わかりました。
○質問者　前回コピーを取らせていただいたんですが、いいですか。
○福山前副長官　どうぞ。
　もう一度申し上げると、官房長官に状況が把握できるまで会見を延ばしますかと言ったら、官房長官が私はやります、あんな爆発の映像がテレビで流れているのに、長官が会見をずらすというと、もっと動揺が広がるから会見に行きますと言ったんです。ちょうど応接室というのは、私が座って、枝野さんが座って、大体総理がそこにいるわけです。総理はこちらの方で心配そうに見ながら、枝野君にやってもらおうとおっしゃって、そんなときの会見に官房長官を行かすというのは、みんな相当抵抗があるわけです。だって、本当にあの爆発について説明のしようがないわけですからね。それで会見室に入るんですけれども、そのときに出たのが、この間も申し上げた爆発的事象という言葉です。

○質問者　手元にあるのは、先ほどいただきましたペーパー1枚で、そのとき保安院からは何も情報がなかったんですか。
○福山前副長官　ないです。保安院も長官レクの打ち合わせに多分入っていますからね。
○質問者　長官レクの打ち合わせに入られているのは、平岡次長ですか。
○福山前副長官　わからないです。
○質問者　わかりました。
　それだけ情報がない中で、18時の記者会見をされていたということですね。
○福山前副長官　そうです。
○質問者　わかりました。
　どのタイミングかわからないんですけれども、こちらも枝野長官秘書の方からお伺いしているんですが、だれかが長官官房記者会見事前レクの中で、保安院が官邸に情報を入れないで、こういうことを発表しているんだ、どういうことだ、これはおかしいだろうと話をしている場面があったらしいんです。
○福山前副長官　この間も申し上げましたが、これは記憶が余り定かではないんですけれども、オフサイトセンターから、爆発の写真か何かが福島県庁か何かに行っているものがありませんでしたか。
○質問者　そちらは前回お伺いしたら、東京電力の話だったんです。
○福山前副長官　そうでしたか。あれは何日ですか。
○質問者　あれは12日の夜ら辺なんです。
○福山前副長官　あれは怒ったんです。この写真がオフサイトセンターから福島県庁に行っているのに、何で官邸に来ていないんだ。この話は記憶してあります。ただ、それは保安院が何か言っているから上がってきていないという話なのかどうか、そこはどの話を官房長官秘書官がおっしゃられているのかよくわかりませんが、私の中では、あのとき写真が行っていることに対して、官邸に来ていないことについて、何なんだと、秘書官も含めてみんなで怒っていたのはすごく記憶にあります。
○質問者　その場所というのは、記者会見のレクする場所ですか。
○福山前副長官　紙が行っているのがわかったのがどの時点か定かではないんですけれども、多分夕刻のどこかの時点だと思います。こんな紙が出ているのではないか、何でこちらに来ていないんだみたいな話をみんながしていました。
　ちなみにこの間も申し上げたんですけれども、かちっと会議をやっているわけではありません。つまり私などでいうと、総理の執務室に行ったと思ったら、官房長官の役所が集まっている事前レクの場所にぱんと飛び込んで、それが終わったら、官房長官がこういう表現をしましたと総理のところに飛び込んでいくみたいな話ですし、官房長官も先ほどのお話のように、危機管理センターに呼ばれて飛び込んで、上がってきて総理のところへ行くという話なので、かちっと今から会議が始まりますという雰囲気ではないので、済みませんが、そこは含んでいただければありがたいと思います。

○質問者　わかりました。

話が少しずれてしまうんですけれども、3月12日午後9時ごろの枝野官房長官の記者会見の中で、初めてこれは水素爆発でした、格納容器は破損はしていませんという話を言われているんですが、こちらで水素爆発と格納容器が破損していないというのは、どういうふうに確認されたんですか。

○福山前副長官　それはこの間も申し上げましたように、例の注水をするという議論があったときに、1時間半ぐらいかかるというのが武黒さんからあって、総理からは臨界の可能性はないのかという指摘があって、それはゼロではないと班目さんがおっしゃられたので、安全委員会で確認しておいてくれ、塩水を入れて大丈夫なのかということも確認してくれという話が6時過ぎにありました。

7時35分から、細野補佐官が恐らく武黒さんからの報告を聞いてだと思いますが、執務室に入ってこられて、この間もお見せしましたが、モニタリングの数値をまず報告されます。モニタリングの数値を見ると、ここにこう書いてあって、このモニタリングの数字には、15時36分にここが爆発で860に上がるんですが、後に落ちるわけです。これが低下をしているので、格納容器の爆発ではなくて、建屋の爆発にすぎませんということを細野さんが総理に報告をされます。

それで、ポンプが動いて、管が生きているので、水は入れられますということで、PM8時に確認をして、起動をして、水を入れましょうという話を決めます。そのときにこれは水素爆発ですという説明がようやくあって、それをもって官房長官が二度目の会見に向かったというのが実態です。

○質問者　よろしければ、それをコピーさせていただいていいですか。

○質問者　もうあります。

○質問者　わかりました。

次なんですけれども、またちょっと場面が変わります。前回も少しお伺いしたんですが、3号機の関係なんですけれども、3月14日の午前5時56分ごろから、計画停電の記者会見をされていると思うんですが、3号機の話というのはその中で言われていないんです。3号機の話をその前にしているのは、3月13日の午後8時です。その次が3月14日の11時なんです。

○福山前副長官　それは3号機が爆発したときですね。

○質問者　爆発したときです。

この前のヒアリングをお伺いするに、ここの間は計画停電の方にかかりっ切りだというお話をされていたんですけれども、3月14日の午前5時56分の会見が終わられた後も計画停電の話でしばらく対応されていたんですか。

○福山前副長官　56分は6時15分に結局計画停電が延びるわけですけれども、その後、炉の状況については多分報告が上がっていると思います。しかし、現実の問題として、会見する場面がなかったのではないか。

そのころは定期会見になっていますね。
○質問者　定期かどうかはわかりません。
○福山前副長官　11時と夕方です。そこは余り意識がないんです。
○質問者　3号機が爆発していますので、1時間ごとにやられていることもあるんです。それは13日の午前8時からです。
○福山前副長官　13日ですね。
○質問者　はい。
こちらは14日です。どれが定期かと言われるとあれですね。
○福山前副長官　13日ぐらいまではやっているんですけれども、これは11時ですね。
○質問者　はい。
○福山前副長官　これで爆発です。この爆発はやっている最中に爆発したんですね。
○質問者　そうです。
○福山前副長官　私がメモを入れたんです。それで後で御説明しますといって、余り詳しいことを言わないで、ここになっていますので、認識としていえば、14日の明け方まで我々は計画停電にかかりっ切りになって、そして、この状況で初めて爆発という話を聞いたということだと思います。
○質問者　その関係なんですけれども、14日の午前6時10分ごろから3号機の格納容器の圧力が設計限界を超えていわゆる15条事態に陥るんですけれども、圧力が上がってきました。その後、作業員も一時退避したり、そういった幾つかのイベントが起こっているんですけれども、そういったことを発表したのが11時の会見が初めてになるんです。先ほどこの間に会見の場がないとおっしゃられていたんですけれども。
○福山前副長官　これは13日ですね。
○質問者　14日の話ですね。
○福山前副長官　これは14日ですか。今、14日ですか。
○質問者　今は14日の話です。計画停電の発表の後です。
○福山前副長官　14日はよくわからないです。
○質問者　計画停電の記者会見の後、福山官房長官はどちらにいらっしゃったか覚えていらっしゃいますか。
○福山前副長官　14日ですね。
○質問者　14日の午前6時ごろです。
○福山前副長官　2人して仮眠していたかもしれません。わからないです。
○質問者　朝まで徹夜ですね。
○福山前副長官　14日は極めつけの徹夜です。11日、12日、13日、14日で4日目ぐらいです。ひょっとしたら、計画停電の会見をした後、官房長官にはちょっとお休みをくださいという話をしたかもしれません。

13日の夜中の11時に東電を呼んで、3時にもう一回東電を呼んで、そして、会見の打ち合わせをして、それから6時です。計画停電は実際されないというのと、あの日の午前中の記憶でいうと、朝ニュースをいろいろ確認して、実際に計画停電はやられていないんですけれども、電車とかは止まっていますし、計画停電の混乱が起こっていないかどうかをテレビの報道で確認した記憶はありますが、その後の記憶は結構切れています。

○質問者　そのころに、先ほど申しましたとおり、3号機の状況が非常に悪くなっていく。官邸の5階の小部屋にいた東京電力のリエゾンがこういった紙を持って話をしにきているんです。原子力格納容器の圧力が急上昇しているが、速やかに低下しています。1回上昇したけれども、下がっている。そういった旨を発表しますということを、この紙を持って官房長官室や官邸5階にいた保安院のリエゾンと情報交換をしていたらしいんですけれども、こういった御記憶はありますか。

○福山前副長官　全くないです。

○質問者　わかりました。

ちょっと誘導的になってしまうんですけれども、逆にいうと、このころは3号機の状況というのはフォローされていないような状況だったんですか。

○福山前副長官　3号機の状況を具体的にフォローし出すのは、多分午後以降です。14日から15日の明け方にかけて、例の撤退騒ぎになるわけです。だから、午後以降に相当緊張感が高まっていて、しょっちゅう応接に行き来するんです。

○質問者　それは13日の話ですか。

○福山前副長官　14日です。

○質問者　それは2号機の話ですか。

○福山前副長官　違います。14日です。

○質問者　14日、3号機は午前11時に爆発しています。

○福山前副長官　13日ですね。

○質問者　14日です。

○福山前副長官　統合対策本部が14日ですね。

○質問者　15日の朝になります。

○福山前副長官　だから、14日からですね。

○質問者　そうでございます。

○福山前副長官　だから、14日の午後から全部が不安定になるんです。

○質問者　それは2号機です。

○福山前副長官　号機は別にして、それぞれのオペレーションが並行して行われて、夕方以降、それぞれの圧が上がっているので水が入らないから、圧を下げたいみたいなことがあちこちで起こるんです。2号機を中心に起こるわけですね。

○質問者　はい。

○福山前副長官　それが不安定であるのは、我々らの印象でいうと、大体14日の午後ぐらいです。私らのイメージでいうとね。
○質問者　逆にいうと、水素爆発が起こるまでは、特段の印象はお持ちでいらっしゃらなかったんですか。何か重要なイベントが起きたという認識はないということですか。14日の午前です。
○福山前副長官　ずっと不安定だというのはわかりますけれども、先ほど申し上げたように、1号機は水素爆発したので、それから先、ほかの号機に関しても水素爆発の蓋然性が高まっているという認識はありますが、逆にいうと、1回爆発してしまっていますから、あとはいかに爆発しないかみたいな話なんです。でも、爆発するかもしれないみたいな不安定な中で、午前中の意識はそんなにないかもしれません。
○質問者　今、そこの情報共有状態を個人的には問題だと思っているところがございまして、この前、枝野官房長官秘書の方に話をお伺いしても、3号機の圧力が設計限界を超えている、15章事態に至ったという話を聞いたのは、11時の官房長官記者会見の直前だということを言われているんです。
○福山前副長官　それは私もほとんど意識がないです。逆にいうと、14日の午前中は何をやっていたかというと、前に申し上げた、狭心症の人のオペレーションがうまくいっているかみたいなことの確認をしていました。
○質問者　要は計画停電の延長線上の対応ですね。
○福山前副長官　延長線上です。
○質問者　裏ではそういう事象が幾つか起こっていて、11時に話を整理して、記者会見をしている最中に、ついに水素爆発を起こしてしまったということで、よろしいですか。
○福山前副長官　少し空白かもしません。
○質問者　わかりました。
　評価的なところをお伺いしたいんですけれども、誘導的な話になってしまうんですが、計画停電にずっと対応されていた。枝野長官も多分徹夜続きで、すごいお疲れだったと思うんですけれども、福山副長官と枝野長官しか、官邸の中でスポークスマンとして記者会見の矢面に立つ方はいらっしゃらないんですね。
○福山前副長官　いないです。
○質問者　その関係で、その2人がどうしても把握していなければいけないという状況が起きていて、片や計画停電という物すごい重いミッションがある。そうすると、どちらかが、どうしても原発関係がお留守になってしまうという印象を受けているんです。福山副長官は、今のお話を後々で結構なんですけれども、御存じになられて、どういった御印象を受けられますか。
○福山前副長官　当時は枝野官房長官の会見が、国民との関係でいうと非常に唯一の太いパイプでした。官房長官ではなく、休んでもらって、私がかわりに会見をしようという話も実はあったんですけれども、それは枝野さんと私でやめようということにしました。そ

れは枝野さんにやっていただく方がいい。国民とのある種の信頼関係を途中でかえてはだめだという話をして、枝野さんにやってもらうことになりました。

ただ、重要なのは、総理と枝野官房長官の会見を常につないでおかなければいけない。枝野さんはこういうことを表現したということで、私は陪席をして、その中身を把握していました。枝野さんにいちいち総理のところに行ってもらうわけにもいかないので、走り回っていました。

一方で、ほかの選択肢があったかというと、あえて申し上げると、枝野さん以外が会見をする選択肢はなかったと思います。例えばあの場で官僚のだれかがかわりに会見をしたときに、報道がどれほど扱ってくれたかどうかということについていえば、若干疑問に思います。勿論保安院の会見等は、補足の専門的なものをカバーすることについていえば、多分貢献をしていただいたと思いますが、実際に国民へのメッセージということでは、枝野さんの会見が唯一のコミュニケーションツールだったと思っているので、そこは他の選択肢はなかったと思います。

[redacted]

○質問者　こういうのもあれですけれども、秘書官の方々のお話をお伺いすると、官房長官にすごい重責がのしかかっていた。いわゆるマンパワー不足、人手不足が起こっていて、言葉は悪いんですけれども、気が回らないような状況ができてしまっていた。こういったことを防ぐには、どうすればいいかみたいなところで、もし先生の御知見がございましたら、お願いします。

○質問者　言葉をかえて述べさせていただくと、多分計画停電の話というのは、前の日から14日の朝にかけて、調整というのは物すごい大変なオペレーションだったと察していますし、現にそうだったと御認識されていると思います。

一方で、この前、私がお話したかもしれませんが、官房長官はスポークスマンの仕事だけだとしても、物すごく大変だと思います。いろんな事象が起きている中で、スポークスマンとしての仕事だけでも寝る時間がないぐらいの状況の中で、プラスαとして計画停電などのオペレーションについて担当されて、福山副長官も入られてやられて、人の能力の限界を超えている状況だったと思うんですけれども、官房長官自らあるいは副長官自ら計

画停電のオペレーションに当たらなくていけなかったのかといいますか、役人にやらせればよかったのではないかとも思うんです。

○福山前副長官　言葉を選ばずに申し上げたら、逆にいうと、官邸に何の事前協議もなく計画停電は発表されるわけです。正直申し上げると、原発事故にみんなが寝ずに対応している最中に突然計画停電が発表されて、ブラックアウトするから、計画停電やむなしみたいなことがあって、東電流にいうと、そういう昔ながらのことがありました。電気がほしければ言うことを聞けみたいな空気で物事がどんと発表されるわけです。政府としてはそれをキャンセルするわけにいかない。申し訳ないですけれども、経産省が東電に何らかの指導的な役割を果たせるとは、当時は到底思えないので、[redacted] こちらで受けるしかないんです。つまりそこは非常に問題です。そもそも経産省を通じて計画停電が発表になってしまっているわけです。

こちらは、例えば狭心症の人が何人かいるから、その人たちに死者が出るかもしれないから、何とかできないかとか、大口の契約者から節電等の対応について協力は得られないのかみたいな、ほかに選択ができる、ほかにオプションとしてできるようなことをやっているかというと、何もやっていないので、しようがないから、夜中の[redacted]1時に呼びつけなければいけないわけです。

あとは、ある種どの程度政治的な意思の中でやらせるかというところまでいかないと、東京電力、保安院、資源エネ庁という体質はなかなか、そこのコミュニティでは物が動かないわけです。私らは正直言って、それは最初の3～4日で感じていましたから、この間お話して二度になるかもしれませんが、あのときに、官房長官も、このままでいくと未必の故意となって殺人罪になるぞ、俺が告発するぞ東電と。私は首都圏にある大口顧客者について、多少の節電要請などをしたのかと言うと、大手顧客にはそんなお願いは自分らはできませんといけしゃあしゃあとですよ。ある地域は計画停電を何時間もするということを、一般家庭も顧客なわけではないですか。その人たちに停電すると発表していて、いけしゃあしゃあと大口にはそんなことはお願いできませんと言うんです。狭心症の人は大丈夫かと聞いたら、過去において停電してもそんなことはありませんでしたから大丈夫でしょうと言うわけです。

現実に私が言ったのは、これははっきり覚えていますけれども、震災は11日でした。11日、12日、13日の3日間で電力の需要は多分相当落ちているはずだ、みんな使っていないだろう。11日以降、どのぐらい電力需要が経年と比べて落ちているか数字を持ってこいと言ったら、そんな話は何もないんです。副社長は夜中の11時に手ぶらで来たんです。そもそもそういう体質なんです。そこで経産省の役人が、例えば官邸がこう言っているからといっても、できませんと言われたら、結局こちらが出ていくしかないわけです。

○質問者　経産省はできませんと言うんですか。

○福山前副長官　東電はできませんと言っていますといって、オウム返しがくるに決まっているわけです。

○質問者　現にそう言ったということではなくて、そう言うだろうということですか。
○福山前副長官　とにかく呼べと言ったんです。枝野さんから経産省の秘書官を通じて、何らかの形で対応しろと言っているかどうかの事実関係はわかりませんが、これはもうどうしようもないから呼びましょうという話になったわけです。そこで政治が出ていくこと自身の問題点というのは、私も理解はします。

例の撤退騒ぎの話もそうなんですけれども、逆にいうと、経産省はずるずるときてしまうわけです。最後は経産大臣まできてしまうわけです。それが本当に撤退か、一部退避なのかは別にしてです。つまりそこまで意思決定ができなくて、経産省のそれぞれのつかさつかさは壁にならなくて、東電の言いなりでぱっとくるわけです。そういう状況が幾つも続くわけです。

[redacted]少なくとも菅総理、寺田補佐官、枝野官房長官、細野補佐官に関していえば、野党時代から私も含めて一緒に政策をつくってきた仲間だったので、本当にみんなため口で、これはどうするかと言える仲でしたから、逆にいうと意思疎通はできたんですけれども、そこはいろんな判断があります。つかさつかさで、12時以降、14日の夕方6時ぐらいまで計画停電を実施しないで済むだけの腕力というか、政治的な意思がちゃんと対応させられたかどうかというのは、疑問なので、政府のガバナンスとしてのオペレーションとしては課題はあると思います。しかし、あの場の状況でいえば、それを任せて放っておける状況ではなかったです。
○質問者　わかりました。
○質問者　御記憶があればなんですけれども、3月14日の午前11時の記者会見の前の打ち合わせのときに、保安院の職員はだれがいらっしゃったかというのはおわかりですか。
○福山前副長官　わからないです。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　多分その当時は安井さんがいるはずです。当時、安井さんの話しか私は耳に入らないですからね。
○質問者　金子さんはいらっしゃいましたか。
○福山前副長官　金子さんと聞いても、顔も浮かびません。東電は武黒さんにかわって、途中から高橋さんが来られていました。高橋さんが来られ出して、私らはようやくプラントの状況が見えてくるんです。1Fの状況はどういう構造かということが見えてくるんです。つまり全部チェンジして、初めて私らの中でコミュニケーションができるようになるので、金子さんと聞いてもわからないです。
○質問者　話題を変えたいと思うんですけれども、次に国際協力関係についてお伺いしたいところがございます。

3月22日から内閣府別館の旧いすゞビルで日米協議が始まっているんですけれども、22日の日米協議が開始された経緯を、御存じでしたら、教えていただきたいと思います。

○福山前副長官　日米協議は、恐らく３月 17 日か 18 日に細野さんとルース大使と長島さんで打ち合わせがあるはずです。
○質問者　申し訳ございません。中座させていただきます。
○福山前副長官　長時間にわたりまして、お疲れ様でした。
○質問者　こちらこそありがとうございました。
○福山前副長官　またよろしくお願いいたします。
○質問者　お招きしておきながら、中座して申し訳ございません。
○福山前副長官　とんでもありません。
○質問者　ありがとうございます。
○福山前副長官　そこで、それぞれの役所からばらばらで大使館等に話がいっている。
　ルース大使が総理に会いに来られます。これが３月 19 日の６時です。
○質問者　19 日の６時ですか。
○福山前副長官　はい。[redacted]
○質問者　済みません。それは総理のところに来られてからの話ですか。
○福山前副長官　そうです。総理会談です。
[redacted]

　その後、恐らく東電の統合対策室に行っている細野さんに、総理から調整しろという話になって、19 日か 18 日に、その前後どちらかわかりませんが、細野さん、長島さんがルース大使とやるんだと思います。
　その後、各役所を集めて対応を協議しようという話のときに、総理から私と細野さんと一緒に呼ばれて、ここまで話が詰まったので、各省庁を束ねなければいけないので、お前がとにかく座長で行ってくれ、あとは統合本部で物理的なことというか技術的なことは細野君がやるということでした。
○質問者　それは菅総理からですか。
○福山前副長官　そうです。

それで21日に最初にプレ会合が行われます。22日から正式に行われるというのが、あのときの状況だったと思います。22日です。22日にプレ会合を行っています。

○質問者　菅総理に福山副長官が座長をやりなさいと言ったのは、20日ですか。

○福山前副長官　わからないです。20日か21日だったと思います。20日ぐらいかな。

○質問者　我々の手元の資料ですと、19日にルース大使が菅総理にお会いされて、そのときに会われたことがきっかけで、統合対策本部にいる細野補佐官に菅総理から対応しろというお話をされて、恐らく翌日にルース大使が行かれることになるんですか。19日にルース大使が長島議員と行かれたんですか。

○福山前副長官　それはわからないです。多分翌日かその日かどちらかです。[redacted]

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　これは表になっていないんですけれども、どうしたらいいんですか。[redacted]

実はしゃべるのをすごく悩んでいるんですけれども、政府の立場は、ヒアリングはすべて開示しなさいというのが立場ですよね。だから、今のところ非開示の話もしていいのかどうかというと、非開示の話もしていいんですね。

○質問者　基本的に国内のことであれば、開示というスタンスでも問題ないと思うんですが、外交が絡む場合については、単純にそういう話ではないものも出てきますので、信頼関係がございますので、そういう点については、非公開にしてほしいということは十分にあり得ます。

○福山前副長官　[redacted]これはどうしたらいいですか。ちゃんと最初からしゃべった方がいいですか。

○質問者　先生のお時間は大丈夫でしょうか。

○福山前副長官　今、何時ですか。

○質問者　4時37分です。

○福山前副長官　5時過ぎまでなら大丈夫です。それでは、駆け足でいきます。

3月12日の0時15分、日米首脳会談があります。

3月13日の昼、枝野・ルース大使電話会談があります。

3月13日の夜、初めて事務方同士の原子力専門家会合が行われます。これは外務省です。

14日、私がキャンベル国務次官補としゃべります。これは情報については、ちゃんと出すということを言っています。

14日の夜、13日に着いた原子力の専門家との最初の会合が私の部屋であります。このときには、班目さんと根井審議官です。そのときの状況について、相当詳しく説明しました。アメリカからはNRCとエネルギー省の人間が1人ずつ、2人来ました。かなり詳しくそのときの状況を説明したんですが、彼らからのコメントはなし。控えただけです。[redacted]

15日か16日の夜、私はルースと電話をします。[redacted]

○質問者　ちょっと止めてもらえますか。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　2日目の原子力専門家との会合は3月15日もやります。3月15日にやるんですが、このときは安井さんに入っていただいています。[redacted]それは結果として平行線のままいくんですが、私らとして安井審議官を同席させたというのは、何度も申し上げているように、安井さんが私らにとってはそのときの状況がわかっている人なので、安井さんに伝えていただきました。

それで、例の常駐させるという話ですが、官邸の3階に保安院と東電と安全委員会の連絡室ができていました。ここにNRCのメンバーは常にいていただいていい、ここは全部の情報が入ってくるところだと言って、結果としてアメリカに官邸にいてもらうことにするといって、3月16日から官邸に来訪することになります。このことについては、総理と枝野さんに了解を取って、私が適当にやりますから、任せておいてくださいといって受け止めました。しかし、このぐらいから、多分一気にあちこちからオーダーが大使館に行き出しているんだと思います。勿論防衛省と駐留米軍は当初からやっています。

17日の早朝、これは明け方でした。枝野・スタインバーグの電話会談があります。このときは事務方も含めて、その後、3時間ぐらい電話会談をしています。でも、このときには既に官邸連絡室が来ています。

17日、例の防衛省の水の投下があった後、菅・オバマの2回目の会談があります。[redacted]ルースさんが19日に来る。そして、細野さんが次の日か何か行って、話を詰めてきて、結果として22日から始まるというのが全部の流れです。

○質問者　具体的に、最終段階でどういった態勢でやるかということを、菅総理にご説明されたときに、こういった紙をごらんになられたことはありますか。

○福山前副長官　あります。

○質問者　こちらの図というのは、聞いたところによると、内閣官房でつくられたというお話なんですが。

○福山前副長官　これは副長官補のところでつくっています。河相さんのところか、西川さんのところでつくっています。これは河相ではないかな。

○質問者　こちらは菅総理の指示に基づいてつくられたんですか。

○福山前副長官　いや、これは官邸の隣の会館でやっていました。

○質問者　会議自体はそうです。

○福山前副長官　裏の民間の会議室でやっていて、マスコミが若干追っかけてきた経緯があって、表に出そうということで、総理と細野さんに説明をして、了解をいただいて、それでこの形をつくって、一応表に出したということです。

○質問者　わかりました。

もう一つ、長島議員と細野補佐官が当時こういう紙をつくられて、こういう形でルースさんと会議をしたというのです。

○福山前副長官　これを見せられて、多分、私は、福山君やれと言われたか、そこが決定してから、この話が出てきたかわかりませんが、現実にはその前後です。

これを見てください。18日午前の日米会議です。18日にも日米会議が行われているんです。

20日午後も事務方で日米会議が行われているんですけれども、防衛省、外務省、東京電力、これも防衛省、外務省、経産省ですね。つまりほんの一部だけで最初は日米会議をやっていたんです。これも事務方でやっているんです。

これだとモニタリングしている文科省の情報は出てこない。更にいえば、厚生労働省は出てこないみたいな話で、あちこちから連絡がいって、この枠では小さ過ぎるという話の流れの中で、先ほどの細野さんのペーパーになるんだと思います。

○質問者　これは防衛省で行われた会議でよろしいんですね。

○福山前副長官　そうです。
○質問者　こちらの方もコピーをよろしいですか。
○福山前副長官　いいですよ。
○質問者　防衛省でやられていたことは、当時から御認識されているんですね。
○福山前副長官　知っています。
○質問者　そちらの方について、総理から、防衛省で細かいことをやっていないで、きちんと一本化しろといった指示があったとお伺いしています。
○福山前副長官　それがその話の流れなのか、細野さんの流れなのか、どこから出てきているのかよくわかりませんが、つまりそういうことがわっといろんなところで出てきて、結局日米会議になったのではないかと推察します。
○質問者　統一するために、最終的に菅総理から細野補佐官に指示があったということですね。
○福山前副長官　そうです。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　それでルースと打ち合わせをしたと思います。
○質問者　なぜ細野さんだったんでしょうか。
○福山前副長官　それは統合対策室で東電とのコミュニケーションをしているからです。
○質問者　東電の情報は、細野さんが一番詳しいからということですか。
○福山前副長官　そうです。炉の状況を詳しいからです。
○質問者　長島先生の話を先日伺ったときに、長島先生が東電の統合対策室にいらっしゃって、NRCの人間から情報がほしいと言われて、細野さんを紹介して、細野さんとの間でパイプができて、その後、この日米協議の話になっていくということが前段階であるようなんですが、そういう話というのは、福山先生は御存じですか。
○福山前副長官　長島さんと細野さんと総理に私は呼ばれたんです。だから、そういうことはある話です。
○質問者　詳細はお聞きになっていますか。
○福山前副長官　詳細はわからないです。
○質問者　総理と細野さんと長島さんがいらっしゃるところに呼ばれて、行かれて、その場には、ほかにどなたかいらっしゃいましたか。
○福山前副長官　よくわからないです。
○質問者　総理から、この仕切りは福山さん頼むよという話だったんですね。
○福山前副長官　理由は明確なんです。各役所がいるから、補佐官は縦系列の指揮系統がないから、お前が行かないとあれだろうということです。位置づけとしては、細野さんは東電とのコミュニケーションを結構やらなければいけないという話だったと思います。
○質問者　わかりました。

○福山前副長官　各省庁の人間が入って、総理が指示をするという場面もあったんですか。防衛省とかあるいは経産省に、日米で協議をやるから、みんなよろしく頼むという場面はございましたか。
○福山前副長官　アメリカとの協議についてですか。
○質問者　はい。
○福山前副長官　防衛省ですか。
○質問者　防衛省とか外務省とか経産省とか、そういう幹部あるいは大臣を集めてよろしくということはありましたか。
○福山前副長官　知らないです。そんなことがあったと言われていますか。
○質問者　先ほど質問で話した中で、総理が防衛省がどうも独自のルートでやっているということを聞かれて、何でそんなルートを勝手にやっているんだと怒られて、その後は急に一本化されていくわけなんです。
○福山前副長官　17日のころは、防衛省もヘリのオペレーションで、北沢さんと総理は2人[redacted]でやっていたので、[redacted]
○質問者　恐らくそれは20日ではないかと思われます。
○福山前副長官　それで防衛省を集めたんですか。
○質問者　防衛省等の幹部を集めて、21日には日米協議をやりましょうということになって、22日に始まるんですが、そういう流れの中で、20日ごろに総理のところに集まって、総理には勝手にばらばらやるなという趣旨のことを言われたということで、複数の方からお聞きしているんです。
○福山前副長官　それは役所が集められたんですか。
○質問者　役所もです。
○福山前副長官　政治家もですか。
○質問者　長島議員がその場にたまたま居合わせたという話を聞きました。防衛省の高見沢局長は、その場にたまたま長島議員が一緒に居合わせて、防衛省が独自のルートでやっていることを菅総理が御存じになられて、菅総理から一本化しろというお話で、内閣官房で先ほどのこの紙をつくられて、それが日米協議の端になったという説明をされていました。
○福山前副長官　それは違います。そのペーパーは、逆にいうと、日米協議が始まってからつくりましょうといってつくったんです。
○質問者　どちらが基端になっているかというと、こちらが基端ですね。
○福山前副長官　そちらだと思います。
○質問者　わかりました。
　長島議員と細野補佐官が練られた計画が走りとなって、これができ上がった。
○福山前副長官　それはルースと打ち合わせをしているはずだと思います。
○質問者　わかりました。

○福山前副長官　長島さんが入っている会は、基本的に私は入っていないです。総理は結構ちゃんと使い分けをしていて、私とか官房長官はラインがある人間だと思っていて、細野補佐官はやはり自分の総理補佐官としての役割で、[redacted]総理は結構使い分けをされていたので、長島さん、高見沢さんの場面には私もいないです。

○質問者　わかりました。

ありがとうございました。私からは以上です。

○質問者　補充で２～３点よろしいですか。お時間も押しているところ恐縮なんですが、モニタリングの関係で、３月 16 日の協議、３月 12 日ぐらいからモニタリングがきちっと行われていないという問題意識は持たれていたと先ほどおっしゃっていて、なぜ 16 日というタイミングで役割分担がされたのか。何か具体的きっかけがあったとか、断続的に話があったんですか。

○福山前副長官　13 日、14 日、15 日と混乱の極みです。モニタリングをちゃんとしなければいけないというのは、当然問題意識としてみんな持っていて、それぞれがばらばらに対応している中で、鈴木副大臣から問題提起があってということだと思います。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　問題意識はそれぞれ共有してきたということだと思います。政務の方で。

○質問者　わかりました。

ここからは、前回お伺いしたお話の中で、一部確認の意味も込めてお伺いしたいことがございます。

１つ目は、ちょっと細かい話で恐縮なんですが、当時、事故の初期の段階で、官邸地下にある中２階の小部屋にいらっしゃって、総理は執務室におられることもあり、協議されたことを総理に相談に行かれる形だったんですね。

○福山前副長官　初日は総理はほとんど地下にいました。

○質問者 [redacted]

○福山前副長官 [redacted]

○質問者 [redacted]

○福山前副長官 [redacted]

○質問者　わかりました。

次は菅総理の視察についてなんですけれども、まさに先ほど見せていただきました今回の報告書の中で、福山副長官を含め、政権幹部の方は総理の現地視察に反対をされたということでした。

○福山前副長官　私は余り反対をした記憶がないんだけれども、私も書かれていました。私は仕方がないとコメントしています。私は明確に反対した記憶はないんです。なぜなら、総理の執務室で寺田さんと打ち合わせをしたのも覚えていて、地図見ながら、どこに行けるか、ヘリから最北でどこまで津波の状況を見られるんだということを、夜中に寺田さんと打ち合わせをしているのを覚えているんです。

だから、先に１Ｆに行きますね。

○質問者　はい。

○福山前副長官　１Ｆに行った後、時間が経過してから、日の出に向かって北へ上がるんです。そのときにどこまで北へ上がれるかというのを地図で見て、寺田さんと打ち合わせをしているんです。だから、そんなに反対したわけではないんですけれども、みんな多少大丈夫かという気持ちはあったかもしれません。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　ちなみに、２時20分、総理、福島決定なんです。この時点で決めています。

○質問者　このページもいいですか。

○福山前副長官　いいです。

このページはすごく重要で、この間も言ったように、１号ベントに入る。炉心は溶けていない。外に出ない。水位プラス１ｍといっているんです。０時57分、総理、危機管理センター入りですから、現実にはこの時点で１号機のベントに入るということを決めているんですけれども、微妙なのは、会見前に２号機のはずだったのが１号機に変わるみたいな議論になっていますね。

○質問者　３時の会見ですか。

○福山前副長官　３時の会見のときです。私らは、そのときに１か２か３かは余り意識がないんですけれども、何もわかっていない状況ですが、メモには１号ベントに入ると書いてあるんです。これが市ヶ谷を７時に出たら、２時間弱で９時だ。そして、９時から11時に帰って来られる、午前中のうちに帰ってこなければいけないというのが、総理の視察の打ち合わせですから、ちょうどこのぐらいです。

○質問者　このページも済みません。失礼いたします。

○福山前副長官　どうぞ。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　視察の話でいえば、もう長くは申し上げませんが、だんだん視察しなければいけないという気分になってくるんです。なぜかというと、東北の被害の状況が津波

で全然わからないわけです。真っ暗ですから、自衛隊機のヘリコプターからの映像も真っ暗で上がってこないんです。結果として、1Fと武黒さんがつながっていないこともだんだんわかるわけです。

私らは、当時、情けない話ですけれども、あれだけ東電がモニターで1Fとちゃんと議論しているというのは一切知らないわけです。そうすると、吉田さんにつなげといってもなかなかつながらない状況の中で、ベントも行われない状況の中で、総理が津波の現場を見て、東電の1Fの状況を確認しないと、今後のオペレーションはなかなかできないと思われたのは、私はある意味合理性はあると思っていて、先ほどのお話で申し上げれば、もしあのときに視察に行かなかったら、今度は現場も見ないで何が判断できたんだといって批判をされる。どちらを選択しても批判をされる場合には、しようがないんです。結果としてどちらがよかったかはわからないんですが、明確に総理の視察のおかげでベントが遅れたというんだったら、我々はそこは責任を負わなければいけないと思いますが、ベントに関しては、総理の視察だからという話はそうでもないと思っています。私らは1時半からベントしろということを意思決定したわけですから、そこは東電側のベントに対する時間の情報伝達とか、実態として手動でベントが行われるのに、どのぐらいの時間的なあれでできるのかということに対する報告みたいなものは、全く適切ではなかったんです。私らには3時に会見したら、すぐにできますというあれだったので、そのことも含めていうと、視察について一定の批判はありますけれども、行かなくても批判を浴びたことを考えれば、私は現場を見たいという総理の判断はそんなに不適切だとは思いません。

例によって、この間申し上げたけれども、海江田大臣が行きたいと言われたときに止めたのは、所管大臣としていてもらわなければいけないし、官房長官と私が残ったのも、総理と補佐官が行っても、官房長官と副長官と海江田大臣が残ることで、現地は守ろうということをちゃんと役割として意識していたので、そこは批判されても仕方ないんですが、行かなければ行かないで、見もしないで何がわかったんだと言われるのは、自明だと思っています。

○質問者　わかりました。

あと2点だけです。細かい話で恐縮なんですが、3月14日に松永経済産業省次官が官邸にいらっしゃって、そこで初めて見られたとおっしゃっていたんですが、このとき松永次官はオフサイトセンターの撤退について、海江田大臣と話をするためにいらっしゃっていたようなんですが、何のために松永次官がいらっしゃっていたか御存じですか。

○福山前副長官　全然知らないです。

○質問者　前回聞かせていただいたときのニュアンスで、東電の撤退の話の関係で来ているのではないかと。撤退に対する危機感が高まっているような印象を受けたのですけども。

○福山前副長官　私はそう思っていました。私には東電から連絡が来ていませんから、東電が撤退と言っているらしいみたいな話で、だれかから、松永さんはその話に来ているの

ではないかみたいな話があったので、そんな空気があったということをこの間も申し上げたということです。

○質問者　わかりました。

○福山前副長官　海江田さんは、オフサイトセンターの撤退の話をしに[redacted]さんが来たとおっしゃっていますか。

○質問者 [redacted]

○福山前副長官　海江田さんもそうおっしゃっていますか。

○質問者　海江田さんもそういうことでした。

○福山前副長官　それならそうかもしれません。ただ、現実問題として、東電の撤退話とは違います。

○質問者　わかりました。

もう一点だけ、オフサイトセンターの撤退というお話を、当時、官邸の中で聞かれたことはございますか。

○福山前副長官　全然知らないです。

○質問者　わかりました。

○質問者　今の撤退の話で、前回もお話をいただいた中で、14日から15日の未明にかけて撤退という話が出ていて、最後にいろいろ議論した上で、総理に話を聞いたら、撤退は否定的であるという流れだとお聞きするんですが、撤退する話というのは、今すぐ撤退するという話だったんでしょうか。それとも前の日の夜から、14日の7時、8時の時間帯から、確かに清水社長からいずれ炉の状態が悪くなったときには、撤退あるいは退避という選択肢を考えなければいけないかもしれないという話があったというのは、東電も認めている事実のようで、ここは動かし難い事実だと思うんですが、その後、条件付きではなくて、もう撤退するんだという話に切り替るようなことは、現にどこかであったんでしょうか。

○福山前副長官　私は枝野官房長官と海江田大臣の電話の報告しか受けていませんから、実際のニュアンスはわかりません。

○質問者　現実に12時を回ったぐらい、15日になったぐらいから、炉の状態が非常に悪くなって、1時ぐらいまでにかけて悪くて、1時過ぎてから一旦圧が下がって水が入るようになっているんですが、そういう情報自体は3時ぐらいまで入らなくて、悪い状態の情報がずっと官邸に入り続けていた中で、これは撤退もやむを得ないという話になっていったのか、それとも撤退しますという話になったか。

○福山前副長官　私らの議題は、完全に撤退したいと言っているけれども、どうしようかです。

○質問者　そうすると、午前1時ぐらい、日が変わった辺りに、改めて電話がだれからあったんですか。

○福山前副長官　海江田さんのところには、電話が２回あるはずです。インターバルがあった上でね。枝野さんも[redacted]２回か１回あるんです。

○質問者　そうすると、条件付きではなくて、いずれそういうときが来るかもしれないという話ではなくて、撤退しますという話だとすると、すごく緊迫した状況になるかと思います。

○福山前副長官　すごい緊迫していました。

○質問者　総理に話に行くのは午前３時ごろで、そこからまた時間がかなり経ってしまうので、若干間延びする感があるという気がしています。

○福山前副長官　炉の状況について、安井さんなどからずっと断続的に聞いています。つまり私からいうと、不安定な状況ですから、撤退する、しないは別にして、作業員の方の状況もあるんです。ところが、安井さんを含めて現場の議論は、まだできることがありますという雰囲気でした。

ただ、この間も申し上げたかもしれないですけれども、私はこんなオペレーションは持続可能なんですかと聞いたぐらい、それぞれが不安定な状況で、言葉は悪いですけど、アクロバットみたいなことをやっている現状を見ながら、それでもとにかくオペレーションを続けてくれていることに対して、それぞれみんな祈るような思いで見ていました。

どこかの時点で撤退の連絡がもう一回来て、ちゃんと議論しようといって、あめとかたばこの吸い殻がいっぱいある応接室をきれいにするんです。そこでもう一回議論をした上で、どうしようという話で、私はこの場だけで決めるのはまずいから、総理の判断を仰いだ方がいいのではないかという話で、総理の判断を仰ぐんですが、それまでは何回も議論していますし、あの辺の炉の状況は30分とか１時間置きぐらいで変わっていると思います。

○質問者　そうですね。炉の状況は変わっているんですが、やはり時間差があって、官邸に届いているから、１時ぐらいの状況が３時過ぎて入ってきているので、安定した状況のときに危険な状態だという認識でいらっしゃる感じがあるんです。認識が違っているかもしれないんです。

○福山前副長官　それはあり得るかもしれません。ただ、現実問題としていえば、撤退についての議論をしていた。つまり安定していても、この安定な状態は持続可能だとは思っていないわけです。また、それなりに圧が上がったら、水が入らなくなるみたいなことを繰り返していましたから、大丈夫なのか、という感じではありました。

○質問者　わかりました。

もう一点なんですが、どの方が東電の方かわからないし、陰が薄かったという話を前回おっしゃっていたんですが、東電の武黒さんか[redacted]さんがいたはずだとおっしゃる方も確かにいるんですが、実はお二人とも御自分ではこの時間帯にはもういないとおっしゃっています。

○福山前副長官　プロメテウスで、武黒さんが当時シャワーを浴びて休んでいたという話を見たので、武黒さんはいなかったんだと思うんですけれども、そうでなければ、[redacted]さんしかいないと思います。

○質問者　[redacted]さんは２階の控え室にずっといて、呼び出しもなくて、翌朝上に上がって行ったら、もうだれもいらっしゃらなくて、あれとおもったら、東電に行ったということをおっしゃっているんです。それで、一体だれがいらっしゃったんだろうということが、我々としては気になったんです。

○福山前副長官　東電でいえば、武黒さんと[redacted]さんぐらいしかイメージができない。ほかにあり得ますか。

○質問者　当時はメーカーの方、東芝の方も入っていたりしていたようですので、その方と似ている方がいらっしゃるのではないだろうかという話もしたりしていました。

○福山前副長官　でも、それはあり得るかもしれないです。

まだ高橋さんは来られていないんですか。

○質問者　来ていないです。

○福山前副長官　そうしたら、武黒さんか[redacted]さんです。武黒さんはいないんですね。

○質問者　ホテルにもう行っているそうです。

○福山前副長官　[redacted]さんでしょうね。

○質問者　炉が安定したということで、ホテルに行って、ホテルでチェックインしてしまっているという裏があります。

○福山前副長官　らしいですね。それはプロメテウスを見ました。そこはわからないです。

○質問者　ありがとうございました。

○福山前副長官　[redacted]

○質問者　逆に東電を外したと言っている方もいらっしゃいます。安井さんです。その話に東電は入れさせなかったということです。

○福山前副長官　なるほどね。逆にいうと、伊藤危機管理監がプロメテで言っている会話は安井さんとしているんですか。

○質問者　そこが謎です。伊藤危機管理監がどなたかと勘違いしているかもしれません。

○福山前副長官　[redacted]さんではないかもしれないのに、伊藤危機管理監は、逆にいうと、保安院か資源エネ庁のだれかとやっていたかもしれない。

○質問者　まだわからないんです。

○質問者　当時、たまたま寺坂院長もその協議の場にいらっしゃったようです。

○福山前副長官　それはたまたまではなくて、重たいから呼んだのではないですか。

○質問者　[redacted]

○福山前副長官　わからないね。

当時は保安院で安井さんですね。安全委員会はだれですか。

○質問者　そのときは班目さんが来ていました。
○質問者　途中から久木田代理も加わっていました。
○福山前副長官　東電を外したのかな。
○質問者　安井さんは、その場に東電はおらず、彼自身の印象としては、あえて外しているんだろうと考えながら、その場に自分がいたということでした。
○福山前副長官　外したという意識は、私は余りないです。そうしたら、安井さんと伊藤さんの会話だったかもしれません。
　安井さんは撤退の意識がないんですか。今、何とおっしゃっているかは別にして、安井さんは撤退だと思っているはずです。ただ、安井さんが私に明確に言ったのは、現場の士気は高い。現場でまだできることはありますと私らに明確におっしゃっていました。
○質問者　やむを得ないということも、安井さんが言われていましたか。
○福山前副長官　安井さんが私らに現場の士気は高い、まだできることはありますと言うのは、そういう意味で言っているんです。撤退はどうするんだというと、まだできることはありますということです。
○質問者　わかりました。
○福山前副長官　伊藤さんは安井さんとやっているのかな。
○質問者　済みません。あと一点だけよろしいでしょうか。
○福山前副長官　いいですよ。
○質問者　これは事前に質問事項で送っていなかったことで恐縮なんですけれども、全く話が変わりまして、食品の関係で、3月19日に出荷制限のかけ方とか、恐らくその説明だと思うんですけれども、農林水産省の篠原副大臣が官房長官と副長官のところに説明に来ているという話を聞いているんですが、そのことについて何か御記憶はありますでしょうか。
○福山前副長官　しょっちゅう来ているからね。
○質問者　3月19日に限らず、そのころに来られましたか。
○福山前副長官　農水省はしょっちゅう来ていました。
○質問者　具体的にどのような話をされていたかというのは、御記憶にあることはありますか。
○福山前副長官　この間申し上げたように、農水省は原子力生活支援チームにしょっちゅう来ていました。
○質問者　それは3月の初期の段階ですか。
○福山前副長官　初期の段階はまだ支援チームができてませんけれども、食品の暫定規制値のころは、農水省はしょっちゅう来ていました。篠原さんもよく来られています。
○質問者　具体的に印象に残っている話はございますか。

○福山前副長官　余りないです。一番印象に残ったのは、農水省が最初に飛び込んできたのは、補償を何とかしてくれということでした。米ができないという話では、強く入ってきたことがあるんです。

食品のことに対していえば、食品の安全、暫定規制値の議論の中で、わからないです。厳しくしろと言ったのか、厳しくしたら、市場から物がなくなると言われたのか、余り覚えていないです。

○質問者　わかりました。

○質問者　ありがとうございました。

○福山前副長官　それから、ちょっと余計なことなんですけれども、計画的避難の話が出ていなかったんですが、計画的避難の最初の案文がこれで、これは官房長官室で官房長官と副長官で全部手を加えて、最後の読み上げがこれなんです。計画的避難区域はそれぞれの役所を呼んで、断続的にやっています。

それから、これが住民避難 20mSv について、この間も申し上げましたけれども、例の原子力の専門家チームをつくりましたが、そのときに全員にお伺いしたときの答えです。常にこういう感じでやっています。

20km から 30km の計画的避難を議論しているときに、避難指示の検討について、松本副知事と桜井さんとか、いわき市などからヒアリングの結果がこうやって返ってきています。

先ほど申し上げたように、例えばヨウ素剤の話についていうと、ちょうど飯舘、川俣の議論のときに、放射線医学の専門家のチームにこういうことを聞いて、答えがあります。

例のレベル７の話も、チェルノブイリの話のコメントをこうやってもらっています。

３月 25 日の答えは、恐らくこれだったと思います。

これはコピーしましたので、全部セットでお渡しします。

○質問者　済みません。ありがとうございます。

○質問者　これはいただいてしまっていいんですか。

○福山前副長官　どうぞ。いいです。私もコピーしました。

避難のものはどうしますか。

○質問者　一部持っているものもあるんですが、ないものもあるので、一応全部コピーさせていただいていいですか。

○福山前副長官　コピーしてください。

○質問者　今、お時間いいですか。お預かりしてもよろしいですか。

○福山前副長官　またお届けいただければ結構です。もう一回持ってきていただければね。

これがそのときの断続的に議論していたものです。このベースを３月 25 日ぐらいから、SPEEDI を回してやっていたというのが、30 日の官房長官の部屋に行く手前の会です。それを基につくってきた案文に対して毎日たたきました。

３月 27 日に屋内退避に関して、関係自治体にヒアリングしています。

それをもしお渡ししてもよろしいんだったら、それをお預けしておきます。
○質問者　済みません。ありがとうございます。コピーさせていただきます。
○福山前副長官　またどこかでね。
○質問者　ノートは今すぐコピーとらせていただいてよろしいですか。附せんのところね。それだけはお返しします。
○質問者　あと、先ほど附せんをはらせていただきました。
○質問者　黄色の附せんです。それです。３枚です。
○質問者　先生からいただいたものは、まとめてPDFにして一括であれしましょう。
○福山前副長官　実は子どもの話も、積算線量のところでずっとやっていたんです。これが積算線量のときのいろんなプロセスです。これは子どもの専門家の話と、暫定的な考え方案です。
これは被曝調査の話です。
これは皆さんお持ちですね。
○質問者　これはあります。
○福山前副長官　これはあれなので、これはコピーしてください。
○質問者　これは最終的なものですね。これもあります。
○福山前副長官　案と書いてあるから、どこまでこれが確定版かわかりません。
○質問者　これは最終版です。ありがとうございます。
○質問者　今日はストーブをつけていなかったんですか。
○質問者　途中で接続が悪くなりました。
○福山前副長官　皆さんには本当に御苦労をおかけします。
○質問者　この部屋は暖房がひとつ壊れていまして、済みませんでした。
○質問者　避難のものだけはコピーに時間がかかりそうですので、お預かりして、また先生のところにお持ちいたします。
○福山前副長官　計画的避難の経路はどうしますか。それは先ほどのものからずっと続いています。先ほどの避難のあれから、それに続きます。
○質問者　これもお借りしてよろしいですか。
○福山前副長官　いいですよ。それはお貸しします。使ってください。でも、まだどこかであれかな。
○質問者　コピーして、またすぐにお届けするようにいたします。
○福山前副長官　そうですか。わかりました。
○質問者　長い時間、どうもありがとうございました。
○福山前副長官　皆さんには本当に御苦労をおかけしていますので、とんでもないです。
（録音終了）